

令和 7 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書
(対象年度：令和 6 年度)

高萩市教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の方法	1
4	外部評価委員	2
II	点検及び評価結果	
1	教育委員会の活動	2
(1)	教育委員会の構成	2
(2)	令和6年度教育委員会月別開催状況	2
(3)	学校訪問	2
(4)	教育委員研修	3
2	教育委員会が管理・執行する事業	4
(1)	学校教育	4
(2)	生涯学習	15
(3)	スポーツ振興	17
(4)	市民文化	20
(5)	防犯	24
(6)	人権	25
III	外部評価委員会委員の意見	27
IV	参考資料	
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	27

1 はじめに

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」といいます。）第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用した点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、公表しなければならないとされています。

このため、高萩市教育委員会では、法律の趣旨に則り、より効果的な教育行政の推進を図るため、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（令和6年度実績）」をまとめ、議会に報告するとともに公表することとします。

2 点検及び評価の対象

本市の市政運営の基本である第6次高萩市総合計画「地域力が笑顔を育むまち 高萩」及び教育委員会の運営の基本である「高萩の教育」における重点戦略を構成する施策のうち、令和6年度に教育委員会が実施した主な事務事業を点検及び評価の対象としました。

なお、法第23条第1項の規定に基づき、高萩市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例を制定し、令和6年4月1日から教育委員会の職務権限に属する公民館等の設置、管理及び廃止に関する事務を市長に移管し執行していることから、当該事務については点検及び評価の対象からは除いております。

3 点検及び評価の方法

教育委員会が実施した事務事業を「1 教育委員会の活動」と「2 教育委員会が管理・執行する事業」に大別し、項目ごとに自己点検評価を行いました。この評価にあたっては、各事業の進捗状況や成果に応じて、「順調（計画通り、またはそれ以上に実施され、良好な成果が得られている状態）」「ほぼ順調（概ね計画通りに進捗しており、特段の問題がない状態）」「横ばい（進展が見られず、現状維持に留まっている状態）」「不調（計画を下回っており、改善が求められる状態）」の4段階の評価基準を設定しました。

また、点検と評価の客観性を確保するために、事務局内部で実施した点検と評価報告について、教育に関し深い知識を有する者（外部評価委員）の意見を求めました。

4 外部評価委員

(敬称略)

氏 名	所 属
落 合 武	元高萩小学校校長
長谷部 栄 子	市文化会館運営委員会委員
岩 間 信 雄	市スポーツ推進委員協議会会長

II 点検及び評価結果

1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の構成

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	大 内 富 夫	令和6年4月1日～令和9年3月31日
教育長職務代理者	小 林 正 治	令和4年10月1日～令和8年9月30日
教育委員	増 子 恵 美	令和6年10月1日～令和10年9月30日
教育委員	佐 川 睦 子	令和3年10月1日～令和7年9月30日
教育委員	鷺 真由美	令和6年7月1日～令和7年3月31日

(2) 令和6年度教育委員会月別開催状況

教育委員会では、付議された案件についての審議や報告等を行う定例会を毎月1回開催する他に、必要に応じて臨時会を開催しました。また、教育委員の意見交換や研修活動等の場として協議会を開催しました。

教育委員会では、25件の議案と6件の報告について審議しました。人事案件や教育委員会規則の制定又は一部改正等について慎重かつ迅速な審議が適正に行われました。これらにおいては、本市の教育行政について様々な視点から建設的に議論されてきました。

教育委員会では、第6次高萩市総合計画で示された主要施策である「未来を切り拓く地域人（萩っ子）が育つまち」等の実現に向けて、様々な事業の展開に努めてきました。

(単位 回)

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定例会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
臨時会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2

(3) 学校訪問

教育委員会と学校現場が互いに共通認識を持ち、より良い学校教育を推進することを目的として、学校園訪問を実施しています。教職員が実際に指導している様子や子どもたちの様子を把握するとともに、学校及

び園での取組や課題について意見交換を行っています。

月 日	場 所
5月16日	東小学校、高萩中学校、秋山中学校
5月20日	高萩小学校、松岡小学校、松岡中学校、たかはぎ認定こども園
5月21日	秋山小学校、秋山幼稚園
11月11日	松岡中学校
11月19日	東小学校、高萩中学校、秋山中学校、秋山幼稚園
11月20日	高萩小学校、秋山小学校、松岡小学校、たかはぎ認定こども園

(4) 教育委員研修

国・県・他自治体の取組等に触れる機会を設け、委員としての見識を深めるため、研修に参加しました。

月 日	場 所	内 容
4月16日	日立市教育会館	県北市教育委員会連絡協議会定期総会 ・県北管内の教育行政について ・各市教育委員会の現状と課題
5月24日	野本電設工業コスモスプラザ (三和地域交流センター)	茨城県市町村教育委員会連合会総会・講演会 【講演】 「子どもたちも教職員もウェルビーイングな学校づくりと教育行政」 講師 妹尾 昌俊
11月18日	水戸市総合教育研究所	茨城県市町村教育委員会連合会研修会 【講演】 「判例から学ぶ学校リスクマネジメント」 講師 坂田 仰

2 教育委員会が管理・執行する事業

(1) 学校教育

一人一人の個性や能力、可能性を広げる教育内容を充実させ、生涯をよりよく生きるための豊かな心と健やかな体を持つ、いきいきとした荻っ子を育てます。

地域の特性や実態に合わせた指導体制や教育施設の充実に努め、豊かで安心して学べる教育環境を整備していきます。

事業名	① 教育環境の整備			
施策の内容	○児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化等の実情を踏まえ、学校施設の適正な配置・整備を進めます。 ○国のGIGAスクール構想を踏まえ、ICT教育の環境整備と指導内容の充実に努めます。			
担当課	教育総務課・学校教育課			
実施内容	○教育環境の向上及び災害時における避難所機能の強化を目的として、学校体育館への空調設備の整備を計画的に進めている。令和6年度は、松岡小学校、秋山小学校及び松岡中学校の3校の体育館に空調設備を整備した。 ○情報モラル教育や情報セキュリティに関する学習を継続して取り組んだ。「事例で学ぶNetモラル」については、各校とも学級活動や総合的な学習の時間等で実施し、小学校では3,756回、中学校では2,294回CBTテスト（コンピュータを利用して実施する試験）を行った。 ○教職員のICT活用指導力の向上をねらいとし、希望する教職員を対象に研修会を実施した。第1回は初級編、第2回は中級編として実施し、自己の力量に合わせて、多くの職員が参加できるようにした。 ○各小中学校に週1回程度配置のICT支援員による、学習支援や更新作業、端末の操作支援等を行い、ICT活用の促進を図った。また、各学校において長期休みを利用し、ICT支援員が講師となり、授業における活用方法についての教員研修を実施した。 ○授業参観や新入生説明会の際に、チラシ等を用いて保護者向けに情報モラル教育の動画視聴を促した。 ○前年度に策定した「高萩市立小中学校適正規模・適正配置実施計画」を基に、高萩小学校、東小学校及び高萩中学校の3校を統合し、新たな義務教育学校を整備するにあたり、その設置場所やコンセプト、施設に備えるべき機能などを定めた「高萩市立義務教育学校施設整備基本構想・基本計画」を策定した。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調

課題と今後の取組	○計画的に学校体育館への空調設備の設置を進めており、未整備の学校は高萩小学校及び東小学校の2校となった。これらの学校については、令和7年度中に整備を行う予定である。 ○学校再編に係る一連の計画に基づき、本来であれば設計業務に着手する段階であるが、社会情勢の変化や本市の厳しい財政状況を踏まえ、当面の間は設計業務への着手を見合わせることにした。 ○保護者向けに行ったオンデマンドによる情報モラル教育の動画視聴を促したが、視聴回数が伸び悩んでいる。家庭を巻き込んだ自分事として捉える情報モラル教育を推進していく。 ○ICT支援員の活用では、小学校における授業支援等が進んでいるが、中学校では小学校に比べ、教科の専門性があるため、授業における支援員の活用の幅は狭い。今後、活用の好事例を積極的に共有していく。
----------	---

主要事業指標 (総合計画の 成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
小中学校幼稚園の適正配置・整備	—	—	—	—	—	児童生徒により良い学習環境を提供するため、学校適正配置計画策定を進め、学校適正配置の具体化に向けた事業の推進を図る。
小中学校ICT教育環境整備	—	—	—	—	—	国のGIGAスクール構想を踏まえ、ICT教育環境整備と運用方法や指導内容の充実に努める。

外部評価委員の評価	○小・中学校の体育館への空調設備の整備が進み、令和6年度末で高萩小学校と東小学校の2校を残すのみとなった。計画的に教育環境の改善及び災害時における避難所機能の強化が図られている。 ○「事例で学ぶNetモラル」におけるCBTテストが小学校で3,756回(昨年度比1,391回増)、中学校で2,294回(昨年度比796回増)実施されている。情報モラル教育や情報セキュリティに関する指導が確実に進められており、素晴らしい。また、ICT活用研修会も初級編、中級編と教職員のニーズに合わせて2回開催され、長期休みにはICT支援員を講師に教員研修が各校で開催されている。昨年度からまた一歩進んだICT活用研修が着実に実施されており、高く評価したい。
-----------	--

	○保護者向けのオンデマンド方式による情報モラル動画視聴が伸び悩む中で、授業参観や新入生保護者説明会の際にチラシ等を用いて動画視聴を促しており、工夫が見られる。 ○保護者向け動画視聴については、自宅で動画を観るのはいつでも観られると思ってなかなか観なかったり、忘れて観なかったりということもあるので、授業参観時に体育館等での全体研修として、保護者向けにお話ししてはいかがか。 ○新たな義務教育学校の設計業務着手が諸事情により見合わせられた。今後の取組に期待したい。
--	--

事業名	② 確かな学力の定着			
施策の内容	○訪問指導と定期的な研修を通して教員の授業力を向上させ、児童生徒の学力向上につなげていきます。 ○家庭学習については、課題の内容や与え方を工夫するなど、より実効性のある家庭学習の実現に向けて取り組みます。			
担当課	学校教育課			
実施内容	○新規採用から３年目までの教員や希望する講師を対象に、教科等指導員がマンツーマンで指導案作成から授業実践、振り返りまでをサポートし、基礎的な授業力の底上げを図った。 ○「一人授業研究」を実施し、全ての教員が自らの授業を録画（録音）することで、自分の強みや改善点を見つける機会を年間３回設けた。 ○茨城大学附属小学校から講師を招き、３年目の教科等指導員による公開授業と参加者による研究協議を行った。参加者全員での活発な研究協議を通して、実践的な指導法に関する学びを深めた。 ○県の学力診断テストや全国学力学習状況調査の結果を分析し、課題となる教科や学年について、いばらきフォローアップ問題やアセスメント問題等を一人一台端末に配付し、家庭学習等で取り組めるようにした。 ○授業力パワーアップ訪問（英語）では、担当教員と指導主事が連携し、学習指導案の検討、授業の観察と実践、そして詳細な研究協議を重ねることで、指導力向上に努めた。			
評価	☐ 順調	☐ ほぼ順調	☒ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○昨年度までの「学校改善プラン」から今年度は「学力向上プラン」に変わり、学力向上に重点を置いたプランを立案して取り組む。月１回の教務主任研修会において、進捗状況を確認したり、他校の取組を共有したりしながら、確実にプランを実施することで、学力向上に努める。また、これまで行ってきた授業力向上に関する研修や事業をブラッシュアップしながら継続して取り組んでいく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
県学力診断テスト市平均点と県平均点との差 (小学校)	－	-4.2 点	-2.6 点	-3.9 点	-3.4 点	+0.5 点
県学力診断テスト市平均点と県平均点との差 (中学校)	－	-5.7 点	-5.3 点	-2.9 点	-3.9 点	+0.5 点

県学力診断テスト市平均点と県平均点との差 (英語)	—	-7.2 点	-8.3 点	-7.2 点	-6.7 点	0 点
------------------------------	---	--------	--------	--------	--------	-----

※令和2年度県学力診断テスト…新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

外部評価委員の評価	○教師が自らの強みや改善点を見つけられるよう、年間3回の動画撮影や録音による「一人授業研究」が位置づけられている。また、経験の浅い教員や希望する講師に対して、教科等指導員による基礎的な授業力向上のための機会が設けられている。教師一人一人の授業力向上を目指すその取組を高く評価する。 ○昨年度に引き続き、いばらきフォローアップ問題やアセスメント問題等を一人一台端末に配付し、児童生徒がいつでも取り組めるよう家庭学習について配慮されている。 ○「主要事業指標」における小中学校の「県学力診断テスト市平均点と県平均点との差」では、少しずつではあるが改善の方向にあり、授業改善の取組の成果が表れてきていると感じられる。まだまだマイナス領域であるので、今後も各学校で課題を分析し改善を図っていただきたい。
-----------	--

事業名	③ 豊かな心の育成			
施策の内容	○環境教育、ボランティア活動、体験学習等の幅広い学習機会を取り入れ、社会の変化に適応できる自主性・自立性のある児童生徒の育成に努めます。 ○児童生徒の取組を積極的に認め、称賛することで、自尊感情や自己肯定感を高めていきます。			
担当課	学校教育課			
実施内容	○W E B Q Uアンケートを年に2回実施して、学級内の人間関係の把握に努めることで、より良い学級づくりといじめや不登校の未然防止につなげた。 ○いじめ認知件数については、これまで以上に児童生徒同士の関わりを注視するために、ささいなトラブルもいじめとして積極的に認知した。 小学校：264件（25.3％）※令和5年度 307件（28.1％） 中学校：124件（22.2％）※令和5年度 113件（19.3％） ○スクールカウンセラーや心の教室相談員、生活指導員、教育支援センター支援員などを配置し、児童生徒を多面的に支援した。 ○小中学校でのS O Sオンライン相談窓口の設置や中学校におけるフォーサイト手帳の活用等、児童生徒がS O Sを出せる場を提供した。 ○令和6年度からは、Q UアンケートをW E Bで実施したことで、結果をすぐに確認できるようになり、児童生徒の不安や困りごとに対し、速やかに支援することができた。 ○中学校においては、全校で校内フリースクールを設置し、安心・安全な居場所づくりに努めたことで、教育支援センター「萩のひろば」に通室する生徒が減少し、相談回数も減少した。 ○いじめ根絶フォーラムや人権集会、生徒主体の校則の見直し等、児童生徒が自分事として考え、主体的に適切な行動がとれるように特別活動の充実に努めた。 ○道徳教育推進教師を中心に、年間指導計画の見直しや授業実践、校内研修を実施するなど、学校教育活動全体を通して道徳教育の充実を図った。 ○「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」による読書活動を推進した。 小学校4～6年：年間50冊以上 469人（84.8％） ※令和5年度 487人（84.6％） 中学校1～3年：年間30冊以上 125人（22.5％） ※令和5年度 118人（20.4％）			
評価	☐ 順調	☐ ほぼ順調	☒ 横ばい	☐ 不調

課題と今後の取組	○SNSのトラブルが増えている。ケース会議や研修を通して、トラブルの兆候やささいな変化も見逃さない観察力を養っていくとともに関係機関と連携していく。 ○児童生徒との良好な関係性の構築に努め、担任教師はもちろん、養護教諭、スクールカウンセラー、心の教室相談員など、複数の大人に相談できる環境を整え、子どもたちが安心してSOSを出せる雰囲気作りに努める。 ○デジタル媒体の普及や多様な娯楽の増加により、児童生徒の読書に対する関心が薄れている。児童生徒の幅広い興味に対応できるよう、学校図書館や市電子図書館に様々なジャンルの本を充実させるとともに紹介方法等を工夫していく。
----------	--

主 要 事 業 指 標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
萩っ子5（5つの約束）を意識した生活を送れた児童生徒の割合	84%	84.3%	84.6%	82.9%	83.6%	88%
みんなにすすめたい一冊の本達成率（小学校）	86.9%	84.7%	88.0%	84.6%	84.7%	90.0%
みんなにすすめたい一冊の本達成率（中学校）	29.3%	18.2%	21.7%	20.4%	22.5%	20.0%
スクールカウンセラーへの相談回数	1,804回	2,267回	1,744回	2,515回	2,303回	2,000回
心の教室相談員への相談回数	193回	196回	190回	195回	212回	190回
萩のひろば支援員への相談回数	58回	66回	83回	50回	16回	60回

※萩っ子5（5つの約束）

- 1.進んで学習します
- 2.誰にでも優しくします
- 3.明るく元気に過ごします
- 4.高萩のよさを学びます
- 5.夢に向かって行動します

※WEBQアンケート…学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等をWEBでのアンケートによって測定するもので、児童生徒の理解を補うとともに、学級の状態の客観的・多面的な理解に活用でき、いじめや不登校、学級の荒れ等の未然防止に役立てる。

※フォーサイト手帳…「振り返り力」を高め、主体的に目標を達成する力を身に付けることを目的としている。

外部評価委員の評価	○「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」による読書活動の数値が、小・中学校ともに昨年度より上回っており、素晴らしい。今後も各学校の読書環境の充実と高萩市立図書館との連携の推進をお願いしたい。 ○令和6年度からハイパーQ Uを年2回のWEB Q Uアンケートにしたことにより、学級内の人間関係の把握等の結果の確認と対応が迅速にできるようになったことはとても喜ばしい。よりよい学級づくりをはじめ、いじめや不登校の未然防止にもつながるこの取組について、今後も是非継続していただきたい。 ○WEB Q Uアンケートを実施することで、子ども達が誰にも言えない事を伝えられるのは、とてもよいことだと思う。 ○児童生徒のS O S発信の場の提供として、各小・中学校のホームページへの「オンライン相談窓口」の設置や中学校でのフォーサイト手帳の活用を図る取組がなされており、高く評価したい。 ○教育支援センターである「萩のひろば」の他に、各中学校に校内フリースクールを設置したことは、とてもよい取組である。不登校生徒への居場所づくりや学習支援、自立支援等により、社会性や人間性の伸長が大いに期待される。 ○児童生徒が自分事として考え、主体的に適切な行動ができるよう、各小・中学校が特別活動の充実に努め、いじめ根絶フォーラムや人権集会等を開催できたことは素晴らしい。
------------------	---

事業名	④ 健やかな体力の向上			
施策の内容	○体育の授業や部活動等を通して、児童生徒の体力の向上に努めます。 ○民間企業との連携による水泳学習、体育的行事、部活動、スポーツチャレンジ等を通して運動への興味関心を高めます。 ○安心な給食の提供及び食育の推進に努めます。			
担当課	学校教育課・教育総務課			
実施内容	○引き続きＩＣＴを効果的に活用しながら、体育の授業を展開した。（１人１台端末で手本となる動画の検索・活用、児童生徒同士が撮影した動画、映像再生遅延アプリの活用、学習カードの記入など） ○小学校では「投力アップチャレンジプラン」、中学校では各校の実態に応じた「体力アップ１校１プラン」を作成し、年間を通して計画的に体力向上に努めた。 ○小学校においては、教育課程を工夫し、保健体育免許所持教員が他学級の体育の授業を行うなど、児童にとってよりよい学習環境が実現するように配慮した。 ○はぎッズ応援隊や中学生が小学校を訪問し、陸上指導をするなど、児童が専門性の高い指導を受ける機会を設けた。 ○令和６年度より、全小中学校において、民間企業における水泳学習を実施し、専門的な指導により、児童生徒の意欲や泳力の向上につながった。 入水率 小学校：８１％ 中学校 ６６％ 泳力が向上したと実感した児童生徒 小学校：７０％ 中学校 ７６％ ○発達段階に応じて、栄養教諭と連携するなど、食について考える学習に取り組んだ。 ○給食の残食を減らすため、各校では給食主任による給食時の食に関する指導や苦手な食べ物にも挑戦するよう、児童生徒への声掛けに努めた。また、食欲を促すメニューづくりに努めた。 ○学校単位での給食の残食調査を行い、食品ロスについて児童生徒が自ら考える機会を設けた。 ○「給食だより」の発行や市ホームページへの「今日の給食」の掲載、学校での「給食試食会」を通し、家庭での食育の推進や学校給食への理解を深めることに努めた。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○全職員及び児童生徒が自校や自己の課題を自覚し取り組めるように、体力アップ推進プランを効果的に活用していく。 ○水泳学習において中学校では、保健体育科の教員も入水し、			

	指導にあたっている。インストラクターの指導を参考にしながら、実技指導力向上を図る。 ○良好事例を積極的に取り入れるなど、効果的なＩＣＴ活用について研修を継続していく。 ○各学校においては、食に関する学習の機会を確保し、児童生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。 ○便りやマチコミ、授業公開を通して、家庭における望ましい食育の啓発を推進する。 ○安全安心な給食の提供を継続するとともに、地域との連携を通じた地産地消の取組を推進する。
--	--

主 要 事 業 指 標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
部活動指導員配置校数	1校	1校	1校	2校	2校	3校
学校給食の残食率	18.2%	19.2%	21.3%	16.3%	17.1%	15.0%

外 部 評 価 委員の評価	○体育科の学習目標実現に向けて、小学校において保健体育免許所有の教師による専科授業の工夫がなされており、よい取組である。今後も継続を図っていただきたい。 ○体育の授業でのＩＣＴの効果的な活用が継続されており、多様な手立てで体力向上に努めている様子がうかがえる。今後は、体カテストや「投力アップチャレンジプラン」「体カアップ１校１プラン」等で、ＩＣＴ活用の成果について具体的な数値で検証できるような配慮をお願いしたい。 ○小学校の陸上記録会等に応じて、はぎッズ応援隊や中学生が出向いての陸上指導は効果的だと思う。是非今後も継続してほしい。 ○民間企業との連携による水泳学習では、昨年度同様に泳力が向上したと実感した児童生徒の割合が高く、よい取組である。 ○栄養教諭による授業、給食主任による給食時の食に関する指導、給食だよりの発行、教育委員会ホームページの「今日の給食」の掲載等、食育への丁寧な取組が継続的になされており、高く評価したい。
------------------	---

事業名	⑤ 開かれた学校運営			
施策の内容	○全ての学校でのコミュニティ・スクール導入を契機として、学校、家庭、地域の連携をより一層密にして学校教育を推進します。 ○自殺・いじめ防止等の対策として、外部機関との連携を強化し、新たな学校支援体制の構築に取り組みます。			
担当課	学校教育課・生涯学習課			
実施内容	○各コミュニティ・スクールが地域の実態や特色を生かしながら、それぞれの課題や目指す児童生徒像を共有し、自走できた。 ○地域連携コーディネーター研修会を年間４回実施し、コーディネーターとしての役割を明確にするとともに、地域学校協働本部リーダーと合同で研修会を実施し、連携を深めた。 ○いじめ問題対策連絡協議会を年間２回開催し、スクールロイヤーやカウンセリングアドバイザーによる講話や各学校の取組について情報共有した。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○ＣＳマイスターや県北教育事務所主任社会教育主事などの外部機関（人材）と連携し、それぞれのコミュニティ・スクールにおいて抱える課題を解決していく。 ○スマホやＳＮＳの普及により、ネット上でのいじめなど、表面化しにくい現状がある。外部機関との連携を深めながら、心理的ケアや相談体制を充実させる。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
はぎッズサポーターを活用した回数	80 回	981 回	685 回	－	－	1,000 回

※令和５年度より、はぎッズサポーターは「はぎッズ応援隊」に統合されたため、実績値を測定できない。

※はぎッズ応援隊活動例

- ・授業支援、クラブ活動支援
- ・登下校の見守り
- ・放課後子ども教室（わんぱく広場）
- ・学校や地域行事の企画・運営

外部評価 委員の評価	○地域連携コーディネーター研修会の年間４回開催、地域学校協働本部リーダーとの合同研修等、地域の学校支援体制が継続されており、各コミュニティ・スクールがしっかり機能している様子がうかがえる。
---------------	--

(2) 生涯学習

誰もが自由に学習機会を選択して学び、それを地域や家庭内で活かしていくことで、生きがいや充実感を持って暮らせる社会を目指します。

事業名	① 生涯学習機会の充実と地域・家庭の教育力向上			
施策の内容	○生涯学習とは何かを市民に広く啓発し、一人一人のニーズに対応したきめ細かな学習機会を提供するとともに、世代間交流の機会拡大につなげます。 ○地域や世代を超えた生涯学習機会の充実により、学びの成果を地域に生かすとともに、家庭の教育力向上に向けた取組を推進します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○市民の生涯学習活動の一助となる生涯学習情報誌「学びいきいき高萩 2024」を作成し、ホームページに掲載した。 ○「いきいき萩っ子育て事業」として、「おかしやQ u e m a Q u e m a」から講師を迎え「3世代でスイーツ作り～飲むバスチーパフェ～」を実施した。(12組33名参加) ○子ども達の健全育成を目的とした夏季事業「少年探検講座」「サマージャンボリー」を実施した。なお、友好都市である新庄市児童との交流事業「萩っ子歴史探検隊」は新庄市の豪雨災害の影響により中止となった。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○少子化・子ども会の解散により夏季事業の参加者が減ってきている。今後の市子連の在り方及び内容の検討をしていく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
市民指導者登録数	60人	58人	55人	54人	49人	60人

外部評価 委員の評価	○「いきいき萩っ子育て事業」は、参加者が年々増加している。今後も魅力ある企画の継続をお願いしたい。 ○子ども会への加入児童、参加該当学年児童の数が減少する中での「少年探検講座」「サマージャンボリー」「萩っ子歴史探検隊」の実施は苦勞が多いかと思うが、意義がある行事であるので今後も継続をお願いしたい。 ○親子で参加、子どもだけで参加できるイベントがいろいろ考えられており、家庭ではなかなかできない体験ができることは、とても素晴らしい。
---------------	---

事業名	② 社会教育施設の整備と活用			
施策の内容	○社会教育施設の適正配置・管理体制を整え、市民に愛される施設として活用します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○文化会館では舞台昇降装置や音響、照明などの定期的な保守点検を実施し、安全管理に努めた。 ○図書館では「図書館まつり」「おはなし会」「おりがみ教室」「読書会」「朗読会」等、市民の日常生活に役立ち、楽しめる図書館となるよう年間を通じて様々なイベントを開催した。また、非常用照明装置と入口ガラスドアを修繕し、屋上の防水改修工事を実施した。 ○視聴覚ライブラリーでは、市行事や秋山幼稚園閉園事業等を撮影し映像記録を作成した。また機材や映像記録の貸出しも行った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○当課で所管する全施設において老朽化が進んでいる状況であるため、高萩市公共施設等管理計画及び高萩市公共施設個別施設計画を踏まえ、将来的な集約・廃止を見据えた施設管理・修繕・更新等をしていく。			

外部評価委員の評価	○市民に愛される社会教育施設として市立図書館の実施内容が具体的に記載された。市民の日常生活に役立ち楽しめる図書館となるように努力している様子が伝わってきた。 ○昨年度の外部評価委員の評価を反映して、実施内容に視聴覚ライブラリーの活用状況についても記載され、映像記録の作成や貸出し等の実施内容が具体的に分かる表現となったことに感謝したい。 ○閉園になった秋山幼稚園、松岡幼稚園を、社会教育施設等として今後活用してはいかがか。老朽化のため使用できないのかもしれないが、エアコンを入れたのにとっても勿体ないので、何かに利活用できたらと思う。
-----------	--

(3) スポーツ振興

各種スポーツ教室や講習会等の充実及びスポーツ施設の適切な維持管理により、幅広い世代の市民が多種多様なスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の増加に努めます。

スポーツ振興団体と協力し、指導者研修や指導者の活用の促進、次世代の指導者の育成等に取り組めます。

事業名	①生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興			
施策の内容	○特色ある講座やスポーツ・レクリエーション等様々な取組を展開し、幅広い世代の多くの市民が年齢や体力に応じ気軽にスポーツに親しめる環境を整えます。 ○指導者研修等により、市民ニーズに対応できる指導者の確保に努めます。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○市内小中学校の体育館や校庭等の体育施設を、学校教育に支障のない範囲内で市民へ開放した。 ○各種スポーツ大会や、イベント、教室等を実施した。 ○令和6年度全国小中学生ウエイトリフティング大会を高萩市文化会館において開催した。同大会においては、2名が中学生新記録を樹立し、翌年2月のJOCジュニアオリンピック（全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会）へ出場した。 ○プロスポーツチーム関係事業については、茨城アストロプラネッツによる公式試合を市民球場にて開催した。また、水戸ホーリーホックのホームゲーム内「高萩市の日」において、高萩市PRイベントを実施、併せて上記の告知イベントとして、市役所内にて選手によるサイン会を実施した。さらに、市内の小中学生に対し、サッカー教室を実施した。 ○中学校休日部活動地域移行の進捗状況は、市内の学校部活動で実施している8競技のうち柔道は移行済、その他7競技は試行的に実施した。また、マルチスポーツとして、ウエイトリフティングを実施する選択肢もできた。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○ホームページやSNS等を活用し、各種団体と連携を図り、市内スポーツの普及啓発並びに生涯スポーツ人口の増加に努める。 ○中学校休日運動部活動の地域移行については、令和8年度の完全移行に向け、生徒が活動できる場所や指導者、活動内容などの確保に努める。 ○ウエイトリフティングの競技力向上を図るとともに、競技の普及啓発等に積極的に取り組み、スポーツ交流事業の増加と地域のスポーツ環境の向上を目指す。また、ウエイトリフティングの全国大会の開催を通じて街の活性化に努める。			

主 要 事 業 指 標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
各種スポーツイベント 等への参加者数	3,200 人	101 人	1,203 人	1,831 人	2,129 人	3,500 人

外 部 評 価 委員の評価	○昨年度同様に各種スポーツ大会、スポーツ教室、イベント等が開催されており、幅広い世代の市民が年齢や体力に応じたスポーツに親しむ環境が提供されている。 ○ウエイトリフティング競技は、結果も出して、中学校休日部活動地域移行にも含まれており、引き続き期待していきたい。 ○全国小中学校ウエイトリフティング大会、茨城アストロプラネッツの公式試合の開催は、昨年度と同様に市民のスポーツ観戦の絶好の機会となった。水戸ホーリーホック選手によるサイン会や小学生対象のサッカー教室も開催され、幅広い世代の市民を対象とした多種多様なスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会となった。 ○中学校休日部活動地域移行は、指導者の確保や指導者と学校の連携調整のためにも、マネジメントやコーディネートする人材が必要だと思われる。 ○「主要事業指標」の「各種スポーツイベント等への参加者数」が年々増加し、令和6年度は2,129人（昨年度比298人増）となった。生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興に係る取組全体が順調である。 ○各種スポーツイベント参加者がコロナ以前の実績まで戻っていない。市報、SNS等での告知はしていると思うが、もうひとつ参加者アップにつながっていない。もう一工夫が必要です。
------------------	---

事業名	②スポーツ施設の整備と活用			
施策の内容	○幅広い世代の市民が、スポーツ施設を活用し、ライフステージに応じてスポーツ活動に取り組むことができるよう、計画的に各施設を整備します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○各施設とも老朽化が進む中、必要に応じた修繕等を実施し、施設利用者が快適に利用していただけるよう整備に努めた。 ○市民体育館は、トレーニングルームへ安全にトレーニングできるスミスマシンの設置を行った。 ○市民球場は、令和6年10月1日から指定管理者制度による管理体制へと移行した。 ○サンスポーツランド高萩は、施設内の全面緑地管理及びグラウンド内土部分の整備、塁ベース部分の付け替えを行った。 ○高浜スポーツ広場は、旧石滝サッカー場の集約化を行い、サッカー競技を中心に広く多目的な利用が可能となるよう人工芝グラウンドを整備し、地域スポーツの振興や青少年の育成、市外からの交流人口や継続的な関係性を持つ関係人口の増加を図り、地域全体の活性化に資する拠点を目指すための実施設計を行った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○所管する全施設において老朽化が進んでいる状況であるため、高萩市公共施設等管理計画及び高萩市公共施設個別施設計画を踏まえ、将来的な集約・廃止を見据えた施設管理・修繕・更新等をしていく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
スポーツ施設利用者数	102,217人	116,350人	146,897人	152,235人	109,039人	100,000人

外部評価 委員の評価	○各施設の老朽化に伴い、利用者が安全で快適に使用できるよう、施設や物品の修繕が適切に実施されている。 ○市民体育館のトレーニングルーム、高浜スポーツ広場の多目的ホールで一般の人でもウエイトトレーニングができる環境はあるのだが、利用者が少ない。告知が必要である。 ○高浜スポーツ広場の人工芝グラウンドの完成が待ち遠しく感じる。サッカーを中心に多目的な利活用が活発に行われることを期待している。 ○高浜スポーツ広場の人工芝グラウンド整備は、サッカーに特化しないで、今まで通り多目的な利用が良いと思う。
---------------	--

(4) 市民文化

創作・発表の場があり、文化団体やグループ・サークル活動が活発に行われるなど、文化活動が充実した社会を目指します。

郷土の歴史や文化財を知り、身近に触れることができ、郷土に関心を持てる環境を整えます。

市内の指定文化財の適切な保護・保存・活用を進め、本市の歴史や文化財に興味・関心を持つ市民を増やします。

外国人との交流や外国文化に触れる機会を増やし、異文化への関心を高めていきます。

事業名	①芸術文化の振興			
施策の内容	○市民のニーズに合った芸術・文化活動を身近に感じられるよう、芸術文化活動への支援の充実を図ります。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○高萩市文化協会が主催する文化祭については、4日間にわたり展示・ステージ発表を行った。また、各団体において会員の勧誘に努めている。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた、子ども文化教室を高萩市文化協会主催のもと5年ぶりに再開し、中学生以下を対象とした文化体験を1日開催した。 ○市制施行70周年記念イベントとして、長久保赤水顕彰会のメンバーを中心とした実行委員会を立ち上げ、長久保赤水記念館（高萩市歴史民俗資料館）にて、朗読劇を1日2公演で開催した。 ○文化会館については「宝くじ文化公演」「國井美香ソロコンサート＆ワークショップ」「市民音楽祭」「ひな祭りコンサート」や観劇会・映画会など7本の自主事業を開催し、幼児から高齢者まで多くの市民が来館した。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○文化団体に、幅広い年齢層からの参加を呼びかける。さらに新たな活動の場を提供し支援する。 ○幅広い年齢層にアプローチできる文化会館自主事業を検討する。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
文化祭の参加者数	2,710人	－人	1,320人	1,500人	1,800人	2,710人

外部評価 委員の評価	○高萩市文化協会主催の子ども文化教室を5年ぶりに再開できたことは本当に喜ばしいことである。 ○長久保赤水記念館にて朗読劇が1日2公演開催されたことは、芸術文化活動への支援の賜だと思う。 ○高萩市文化会館の自主事業で以前、科学の「でんじろう先生」が来たことがあったかと思う。予算の都合などもあるかと思うが、こういった参加型のイベントがあると、集客も得られるのではないか。 ○文化会館で観劇会や映画会等の自主事業も年々増加している。「主要事業指標」の「文化祭の参加者数」も大幅に増加（昨年度比300人増）しており、企画、広報、参加への働きかけ等の努力が成果となって表れていると感じる。
-----------------------	--

事業名	②文化財の保護・保存・活用			
施策の内容	○郷土の貴重な文化財を保存・伝承するとともに展示や周知することにより、市内にある文化財の価値や魅力を広く発信します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○令和2年9月に、長久保赤水関係資料 693 点が国の重要文化財に指定されたことにより、文化財の継承と適切な保存のため、令和3年から10年の8ヵ年計画で33点の保存修理を行っている。令和6年度末現在で修理対象資料のうち14点の修理が完了した。 ○穂積家の利活用については、令和5年に実施したトライアル・サウンディング事業での検証を踏まえ関係各課と協議し、市内団体による活用を推奨することと決定し、朗読会、琴の公開練習及びドラマ撮影等22回の利用があった。 ○市制施行70周年記念イベントとして、市内4か所の文化財等（穂積家住宅、長久保赤水記念館、八幡宮、高萩駅）を周遊するスタンプラリーを開催し、来場客数の増加を図った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○長久保赤水関係資料の修理については、国の補助を活用し、令和3年度から8ヵ年計画で33点の修理を行う。 ○修理により得られた知見を広く発信するとともに、国補助以外の財源確保に努める。 ○歴史民俗資料館の愛称「長久保赤水記念館」の周知に努め、長久保赤水の顕彰事業を推進する。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
高萩市歴史民俗資料館の入館者数	3,010 人	1,152 人	1,511 人	1,793 人	2,102 人	3,600 人

外部評価 委員の評価	○穂積家の利活用について、市内各団体による活用もできるような工夫した結果、朗読会や琴の公開練習、ドラマ撮影等で計22回の利用があったことは高く評価したい。 ○「主要事業指標」の「高萩市歴史民俗資料館の入館者数」は、年々増加しており、令和6年度は2,102人（昨年度比309人増）と大幅に増加した。情報発信や市制70周年記念イベントスタンプラリー、朗読劇等の取組の努力が数字に表れ実を結んでいると考える。
---------------	---

事業名	③市民による国際交流推進			
施策の内容	○市内外の外国人との交流や外国文化に触れる機会の増加に向け取り組みます。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○高萩市国際交流協会主催の市内中学生「海外派遣事業」については、ハワイの交流先が受入れ不可能となり開催できなかった。 ○新型コロナウイルス感染症等の影響により中止となっていた「高萩国際交流の集い」を高萩市国際交流協会主催のもと5年ぶりに再開し、留学生10名が参加し交流を図ることができた。 ○高萩市国際交流協会が主催する「文化交流会」及び「世界のグルメ講座」を開催し、外国の文化に触れる機会の増加に努めた。 ○国際交流協会会員やボランティアなど支援者を集め、毎月第3木曜日に市民センターにて、外国人を対象にした「日本語教室もみじ」を実施し8名の外国人が登録した。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○海外派遣事業については、これまでの交流先との繋がりが途絶えてしまったので、訪問先や実施について高萩市国際交流協会と検討する。 ○高萩市国際交流協会と協働して、外国文化に触れる機会や市内在住外国人との交流の創出を継続していく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
「高萩国際交流の集い」参加者数	20人 (留学生) 15家族 (HF)	-	-	-	10人 (留学生) 7家族 (HF)	20人 (留学生) 18家族 (HF)

外部評価 委員の評価	○高萩市国際交流協会主催の「高萩国際交流の集い」が5年ぶりに再開し、留学生10人が参加し交流できたこと、そしてホストファミリーとして7家族にご協力いただいたことはとても喜ばしいことである。 ○令和5年7月から外国人を対象にした「日本語教室もみじ」が毎月第3木曜日に市民センターで開催されている。国際交流協会会員やボランティアの方々のご努力に心から敬意を表したい。
---------------	---

(5) 防犯

警察等の関係機関と連携し、防犯に関する広報や啓発活動を通して市民の防犯意識の高揚に努め、地域ぐるみの防犯・地域安全活動を推進します。

事業名	学校外での子どもの安全確保と健全育成			
施策の内容	○子どもたちが事件や事故に巻き込まれることがないように、ボランティア等による見守り活動の実施や、青少年相談員による相談・巡回活動の充実を図ります。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○はぎッズ応援隊等による登下校時の立哨指導を行った。 ○新たに青少年相談員と学校の連携を強化するために、市内中学校において相談員による学校訪問を実施した。また相談員による巡回活動や、防犯のぼり旗の設置も行った。 ○体験活動を通して子どもたちの健全育成を図る「少年探検講座」を開催した。 ○防災無線を活用し、ながら見守りを呼びかけた。(教育総務課) ○メルたか、マチコミメール等を活用し、防犯情報の提供を行った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○「地域の子どもたちは地域で守る」を合言葉に、各種団体が子どもたちの安全確保に様々な活動をしている。行政、学校、ボランティア団体等の全体で情報や活動の共有を図っていくことが課題となっている。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
地域子ども安全ボランティア登録人数	43人	34人	37人	25人	27人	60人

※ R5以降の登録人数については、「地域子ども安全ボランティア」の組織を改編したため、「はぎッズ応援隊 見守りボランティア」の登録人数とした。

外部評価 委員の評価	○青少年相談員と学校の連携を図る一助として学校訪問を実施した取組を高く評価したい。 ○防犯のぼり旗の設置も防災無線でのながら見守りと同様、児童生徒の安全確保に役立っている。今後も継続していただきたい。
---------------	--

(6) 人権

市民一人一人の人権が尊重されるまちを構築します。

事業名	学校における人権教育の推進			
施策の内容	○学校教育や生涯学習などの場において人権教育を実施し、差別や偏見がなく、人権の尊重についての理解を深める学習に取り組めます。			
担当課	学校教育課・生涯学習課			
実施内容	○人権教育推進全体計画や人権教育推進計画をもとに、組織的、計画的に人権教育に取り組んだ。 ○人権フォーラムの開催、人権ポスターやメッセージの作成、人権コーナーの設置を通して、各校において人権意識の涵養に努めた。 ○各学校においては、人権問題啓発映画「ホーム」の視聴や人権教育指導資料を活用しての教職員研修を行った。 ○県の性的マイノリティへの理解促進に関する講師派遣事業や人権教育講師派遣事業を活用し、講演会を実施した。 ○各学校に性的マイノリティサポートチームを設置することで、誰に相談すれば良いか分からないという児童生徒の不安を解消し、安心して相談できる窓口（養護教諭、スクールカウンセラー、特定の教員など）を明確にした。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○人権集会や講演会など、単発のイベントで人権教育を終えることなく、年間を通して継続的かつ系統的に取り組んでいく。 ○人権感覚や人権意識といった内面的な変化を数値で測ることが難しいが、アンケートの分析や児童生徒の変容から教育効果を評価し、改善につなげることができるようにしていく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R3)	(R4)	(R5)	(R6)	
人権が尊重されているまちであると思う市民割合	45.6%	—	—	—	—	60.0%

※人権課題

- ①女性 ②こども ③高齢者 ④障害者 ⑤部落差別（同和問題）
 ⑥アイヌの人々 ⑦外国人 ⑧感染者等 ⑨ハンセン病患者等
 ⑩刑を終えて出所した人 ⑪犯罪被害者 ⑫インターネットによる人権侵害
 ⑬北朝鮮当局による人権侵害 ⑭ホームレス ⑮性的マイノリティ
 ⑯人身取引 ⑰震災等の災害 ⑱ゲノム情報（遺伝情報）

外部評価 委員の評価	○昨年度に引き続き「性的マイノリティへの理解促進に関する講師派遣事業」を活用した講演会の実施、人権指導資料や人権問題啓発映画「ホーム」を活用した教員研修が実施されている。 ○安心して相談できるよう各校に性的マイノリティサポートチームを設置した取組が素晴らしい。
---------------	--

Ⅲ 外部評価委員会委員の意見

○「主要事業指標」の数値に伸びが見られる事業が増えてきており、担当課の企画、運営への努力が感じられる。

○令和２年度に示された各「主要事業指標」の数値から、令和７年度の「目標値」が示された。「目標値」に近づいている事業、努力が必要な事業ともに、今年度１年間の取組によりそれぞれの「目標値」につながるよう、各課各グループが一丸となって事業を推進されることを期待している。

○少子化の影響もあり人口が減少している。高萩で子育てしやすい環境を整える施策（補助金など）を講じていただきたい。

Ⅳ 参考資料

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２ 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。